

ICTを活用した教育改善について考える

▶▶ 開催日

2013年3月12日(火)

▶▶ 時間

14:00~15:30

▶▶ 会場

B102教室

他大学の優れた教育実践を紹介しながら、学生の“学びへの意欲”を喚起し、“主体的な学び”を支援する ICT(情報コミュニケーション技術)の意義について理解を深め、実践にあたって解決すべき課題を認識することを目的とします。

名古屋学院大学の児島完二先生(経済学部教授)をお招きし、私立大学情報教育協会が刊行した『未知の時代を切り拓く教育とICT活用』が提言する「授業改善モデル」について解説いただきます。

あわせて、同大学の経済学部が組織的に取り組む教育改善の実践をご紹介します。学生の学習意欲を喚起し、基礎学力を底上げするため、組織的にどのような施策を講じたのか。どのような成果を得て、どのような課題が浮き彫りになったのか。本学の教育改善を考える上で貴重な機会になると考えます。

テーマに関心のある教職員の方ならどなたでもご参加いただけます。事前の申し込みは不要です。

電子計算機センター長, FDセンター長

講演 1 時間 + 質疑応答 30 分間

講演内容

『未知の時代を切り拓く教育と ICT 活用』(発行・私立大学情報教育協会)の解説

主体的学修と質保証を目指す ICT 活用の教育戦略

現代社会からの人材育成の要請に大学が応えようとする際、ICTを活用することでどのような効果が期待されるのか。ICT 活用の意義や可能性、トレンドなどを概観します。

ICT を活用した教育改善モデルの考察

5 年先の理想的な教育の仕組みを追求した改善モデルを考察します。特に、経済学教育に関して、例えば身の回りの経済現象について関心を深めるきっかけを与えたり、経済学の知識を統合してグローバルな観点から判断する力を育成したり。そのための効果的な ICT 活用法を考えてみます。

名古屋学院大学経済学部の取組(平成 21 年度教育GP(大学教育・学生支援推進事業)採択)

例えば、課題発見、問題解決力など。実社会で必要とされる能力が大学4年間で十分に養われていないという批判があります。こうした批判、あるいは社会からの要請に応えるため、経済学部生が2年次までに学ぶべき知識群を6つの分野(経済理論、経済政策、経済事情、経済史、データ処理、法律・制度)に分類し、ICT を効果的に利用してその基礎知識を学ばせるeラーニングシステム「経済学コア 6(シックス)」を構築しました。

この「経済学コア 6」には、学生の学習意欲を高めるため、いろいろな工夫が散りばめられています。例えば、新入生が最初に取り組む課題のテーマは「教育と機会費用」です。「学費を時間で割ると 1 コマあたり何円になるのか？」などの問題を通して、経済的な思考を身につけていくことを促します。

「コア 6」を用いて学生の意識を変えたい。そして、経済感覚を身につけた学生をひとりでも多く社会に送り出したい。これが、名古屋学院大学経済学部の教員の願いです。

講師紹介

児島 完二氏(名古屋学院大学 経済学部教授)

専門は計量経済学、情報経済論。ITが経済に及ぼす影響について研究されています。

一方で、「経済学を難しい理論だけで考えるのではなく、『身近で面白いもの』ということをつなげたい」という観点から、情報ツールを活用した授業改善に意欲的に取り組まれています。その優れた実践は、平成 20 年度情報教育研究集会論文賞を受賞しています(「大規模講義におけるブレンド型授業の展開」)。

現在、私立大学情報教育協会の経済学教育 FD/ICT 活用研究委員として、これからの新たな教育方法の提案などにご尽力されています。

主催：札幌学院大学電子計算機センター／札幌学院大学FDセンター
(問合せ先：電子計算機センター)